

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第29号（令和6年9月20日）

玉小がめざす【子ども像】②

【進んで学ぶ子】② 前号（第28号）では

先生たちの考えをまとめると

じ こ ちょうせいがかくしゅう

進んで学ぶ子とは、自己調整学習ができる子
です。

と言いました。

進んで学ぶようになると

- 先生やおうちの方が言うことを待って行動するのではなく、「次に何をすべきか」を自分で考えて行動できるようになります。
- 自分で決めたことを責任をもってやり遂げられるようになります。たとえうまくいかなかったとしても、そこから多くの気づきを得て、あきらめずに粘り強く取り組んだり、やり方を工夫したりできるようになります。

そうなるための自己調整学習です。

しかし…
そもそも



じ こ ちょうせいがかくしゅう

自己調整学習って何？



イラストは作者のご厚意で使わせていただいています。

って思っている人も多いはず。

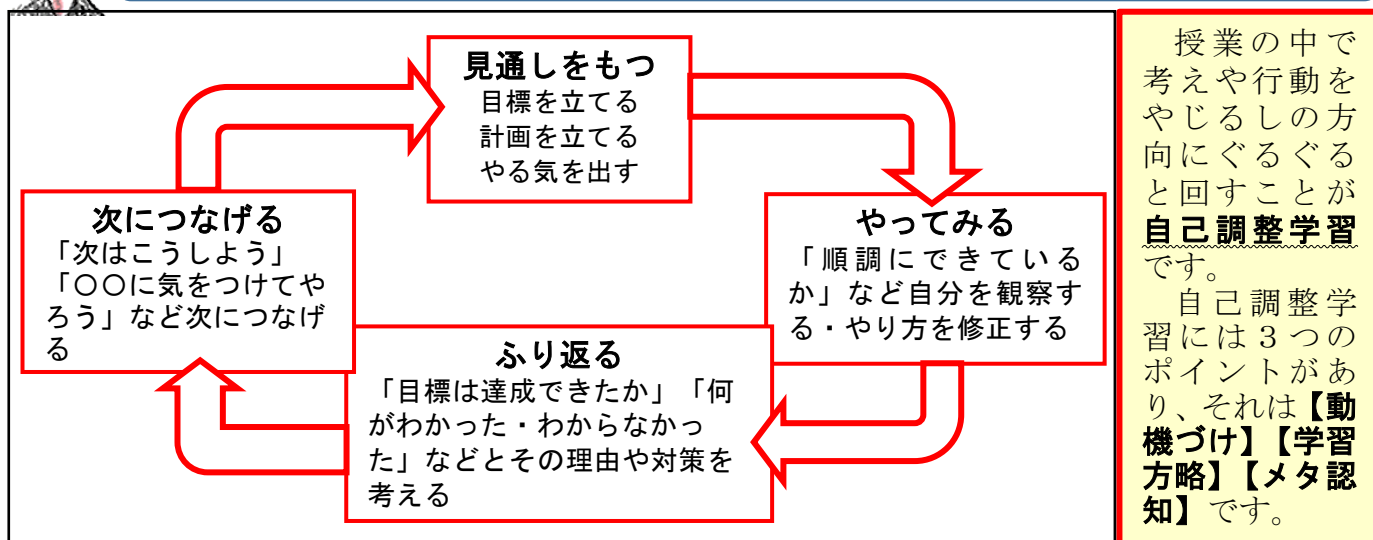
そこで、いろいろと調べてみると…【自己調整学習】とは

学習者が自分自身の学習に能動的に関わり、自らの学習を調整するという学習方法。

だそうです



もっとわかりやすい方がいいなあ。もう少し調べてみよう。これならどうかな。



先生たちの考えを3つのポイントで整理すると…

学校だより第28号の裏面の線と合わせて、全体を確認してみましょう

先生たちの考え…「実現のためにこうする」

- 具体物や見てわかる教材を用意する。(3人)
- 「なぜ」「どうして」と問題意識をもてる導入を行う。
- 興味関心を引き出す発問・学習課題を明確にする発問など、発問を工夫する。
- 日常生活の中に課題や興味をもてるように日々の生活の中で話をする。
- 授業内容を生活に結びつける。
- 受動的(聴く・見る)な活動よりも能動的な活動を中心に授業を考える。
- 発問の工夫、自主学習の工夫
- 導入の工夫(自分事として考えられる、興味関心を高められるなど)
- 宿題の出し方の工夫(各自に合わせた内容・自主学習、タブレットの活用)
- 「できる・わかる」を体験できる問題を解く。
- AIドリルを活用する。

動機づけ

- 「自分もできそうだ」と思えるような課題(めあて)にする。
- めあてを自己評価しやすいように具体的なものにする。
- 授業の始めには、「これまでに〇〇なことをして〇〇ができるようになったから、その力を使えばできるよ」とヒントや助言をする。
- 日頃から子どもたちの力を言い、自信がもてるようにする。
- 「できる」体験を多く積めるようにする。小さな目標でも自覚的に達成に向けて取り組めるようにする。
- お互いポジティブな声をかけ合えるようにする。
- 授業の流れを提示し、スモールステップで進める。
- 具体的な+の声かけをする。(できたことをほめる)
- 学習規律を整える。○前時のふり返りの時間をとる。

動機づけ

- 方法が思いつく・選べる・工夫できるなどは経験や体験を積むしかない。経験や体験により多様な方法や工夫を獲得していく。そのためにはいろいろな経験ができるようにする。
- 自分の考えだけでなく、他の人の考え(やり方)も分かりやすく説明できるようにする。
- PDCAサイクルを身につけることができるようにする。
- はなまるノートを効果的に使って、学習方法を確認する。
- 教科書だけではなくWebや動画などを活用する。
- 友だちとやり方を交流できるようにする。
- 学びを共有できる機会をたくさんつくる。
- 単元を貫く目標(めあて)を設定し、自分達で学習計画を立てられるようにする。
- ICT機器やワークシートなどを単元ごとに使い分ける。小テストなどで何が自分に向いているのか気付けるようにする。
- 考えを伝える時のポイント(何を伝えるのか、何を伝えなければいけないのか)を知らせる。聞く時のポイントにつながる。
- ペア・グループの他に自分がアドバイスを受けた人、意見や考えを聞きたい人のところへ自由に動ける場を設定する。

学習方略

- うまくいかなかった時に「どこに問題があったのか」「どう改善したらよいのか」を考えることができるようにする。
- ふり返し【「〇〇なことをして、△△な力がついた」→この力は□□の時に使える】
- ふり返りの時間を確保する。(見直しや復習を通して行えるように)
- 全体⇄個人と行き来しながらふり返りに価値が高まるようにする。2人
- 自分の考えを説明できるようにする。
- ふり返りで自分の生活の中で生かせることを考えられるようにする。
- ふり返りの工夫(具体的な視点を示す)
- 「次はどうしたいか」ということについて目を向けられるような声かけ・価値づけをする。
- 目的とやり方を考える。

メタ認知

先生たちは、「こうなって欲しい」という【みなさんへの思い】をもとに、学級の様子や教科・授業の内容に合わせて、上に書いていることを選んで、授業に取り入れていくと思います。みなさんも【進んで学ぶ子になる】をめざしてできることから取り組んでいきましょう。